

概念相対主義の可能性

横山 幹子

目次

第一章 本稿の目的と考察の方法	1
第一節 本稿の目的	2
第二節 考察の対象	3
第三節 考察の方法	5
第二章 相対主義的に見える考え方	7
第一節 クワイン	8
第二節 クーン	17
第三節 グッドマン	27
第三章 相対主義批判	35
第一節 デイヴィドソン	36
第二節 パトナム	41
第三節 バーナード・ウィリアムズ	46
第四章 考察	50
第一節 今までの考察	51
第二節 三つの指標の検討	52
第三節 概念相対主義の可能性	60
第四節 まとめ	64
註	65
参考文献	77

凡例

- ・「」は、引用を表すために使われる。
- ・『』は、書名を表すために使われる。また、本文では、論文名を表すためにも使用される。
- ・引用のなかで使われる『』は、原文における””（引用される文章が日本語の場合は、「」）を表す。また、原文において書名等を表すために使われている””のためにも、『』を使う。
- ・（）は、引用以外の場所では、著者による補足を表す。また、引用以外の場所で原語を示すためにも使われる。
- ・引用のなかで使われる（）は、原文における（）を表す。
- ・〈〉は、論旨をわかりやすくするために、著者により挿入される。
- ・[] は、章または節の題名を表すために使われる。
- ・[] は、引用のなかで、原語を示す際に使われる。
- ・《》は、相対主義を整理する際に使っている指標を表すために使われる。
- ・アンダーラインは、原文における斜体を表す。
- ・引用の翻訳は、著者による。ただし、翻訳書がある場合、訳語や解釈等に関して、その翻訳を参考にしている。